

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	52.0%	自校A B層の割合	53.0%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において一人一枚ホワイトボードを活用した、解法の意見交換の時間をつくる。(算数)</li> <li>毎回の授業で自分の考えや振り返りを書く時間の確保及び、書いた内容の交流を行う。(各教科)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力定着の時間として「スギニタイム」を設定し、「ドリルパーク」を行う時間とする。</li> <li>東京ベーシックドリルを年間4回行い、校内の児童の苦手を把握し、授業で取り扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川っ子studyweekとスギニ家庭学習キャンペーンを関連付け、保護者に家庭学習の実施を確認してもらう機会として学期に2週間程度実施する。</li> <li>「江戸川っ子読書科コンクール」及び「調べる学習コンクール」に取り組み、全員が提出できるようにする。</li> </ul>
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボード書く際に解法のヒントカードを提示したり、集団計活にしたりする。</li> <li>考えや振り返りを書く際に話型を提示し、個別にも支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人カルテとしての補習ファイルを活用して、一人一人の苦手に応じた補習を行う。</li> <li>「ドリルパーク」の課題として個別に前学年の内容の課題を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スギニ家庭学習キャンペーンの時期だけでなく、常に宿題の実施を確認できる連絡シートを活用し、家庭との連携を図る。</li> </ul>
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の学力向上を図るための調査「授業の内容はどのくらい分かりますか」各学年・各教科肯定的意見</li> </ul> <p>85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月に行う、ベーシックドリル診断テストCの8割達成者</li> </ul> <p>80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査「授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答割合</li> </ul> <p>80%以上</p>